

第一問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

人は考える葦である、笑う動物である。しかし、旅する動物でもある。

渡り鳥が旅するのは、生活のためである。チヨウのなかにも長距離を移動するものがいると聞く。サケの回遊はよく知られている。しかし、人の旅は、生活のためではない。出張の場合は、ふつう旅とはいわないだろう。旅行というのともちよつと違う。「たび」に柔らかな響きと広がりを感じられるのは、それが大和ことばだからである。人は、生活そのもののために旅するのではない唯一の生き物ではないか。

では、人はなぜ旅をするのだろうか。生活を離れるために、日常を忘れて非日常を味わうために、そして、ふたたび日常に戻るために旅をする。

⑦ 日常の生活は、たいてい平凡だ。ダセイで動く部分が多い。もつとも、それで助かっているところがある。いちいち決断を迫られたのでは、歯ブラシ一本手にするのもおつくうになる。有名人の生活でも、四六時中脚光を浴びているのではないだろう。平凡な生活のなかで、しだいに澱おちのようなものがたまってくる。旅は、それを洗い流してくれる。

① 非日常の旅先で、土地の人びとのつましい営みを見るのは、こころ安らぐ。「ごくろうさま」と声をかけたくなる。いまは一時的に解き放たれているが、その土地の日常の平凡さに、自分自身の姿を映して見るからだろう。異なった風物、異なった方言、異なった言語に接しても、人びとの生活がそれほど違うものではない、と知ってほつとする。それが、帰宅本能を刺激する。

たいていの人は、旅から帰ったとき、わが家が一番だと思う。そして、家を出たときとは、少し気持ちが変わって

るのに気づく。旅は、平凡な日常に刻みを与えることによって、生のリズムを生みだす。生活にメリハリをつける。緊張と ^①カンワ ^①といつていいのではないか。漂う不安が心の表面にさざ波を立てるころ、「A」となる。

ドアを開けるイメージは古びない。体が覚えているからだと思う。外から近づくとき、内部はつねに多少なりとも謎めく。ドアを開けると何が見えるだろう。秘密の部屋、開かずの部屋、記憶の部屋。人はカギを持つことによってその部屋の主人となる。開けたドアは、自分でもまだ踏み込んだことのない心の領域かもしれない。

内から開けるドアは、旅立ちを合図する。閉ざされていた視界が開け、外の光が射し込み、新たな出発となる。親しんだ内の世界を後にし、未来に向かって歩む存在となる。しばしば過去との、日常との決別も意味する。 ^②ドアを出るとき、カギを残していくのは、その暗示である。

ふたつの文を比べよう。

(1) 戸をひらく。

(2) 戸をあける。

部分的に意味が重なるところがあってもいい。どちらも使える場面もあるだろう。しかし、中心的な意味は異なる。典型的には、(1)の戸は両開きの戸であり、(2)の戸は片開きの戸だと感じられる。(2)の戸を片開き(引き戸も含む)に限定するのは、限定しすぎの心配があるが、両開きの戸が「ひらく」にとられて、 ^③いわば引き算で片開きの方に引き寄せられるのだろう。

すると、「ひらく」と「あける」の一般的な違いはどこにあるのか。「あける」は、「ピンをあける」「封をあける」「穴をあける」のように広く用いられ、開口部がたとえわずかでもいい。たとえば、「すき間をあける」「すき間があく」。「カ

「カーテンをひらく」なら左右いっぱい、「カーテンをあける」なら少しのときもある。また、上昇する幕なら、「幕をあける」というが、「幕をひらく」とはいわない。「幕開け」はきまった表現として定着している。ここから、「夜が明ける」「夜明け」の「あけ」との関係も見える。

「ひらく」は、戸やカーテンを対象にするときは、左右いっぱい引いて広々とした空間・見通しを与えることを意味する。花ひらくときは、これが全方位に広がる。たんに広がるのでもない。「広がる」は、すでにある形があつて、それが拡大していく様子を表す。「ひらく」は、閉じていたものがあけ放たれて、隠れていた姿がすっかり見えるようになることである。それゆえ、すでに形をなしている

B

は、「広がる」ことがあつても「ひらく」ことはない。

「ひらく」と「ひらける」は、「平たい」と「広がる」と音と意味の両方で結びつく。これは、閉じていたものを手であけ広げたり、巻物などをひらいたりすると、平たく広がるからである。開墾では、切り株を取り除き、平らな土地にすることによって、視野がひらけ、土地がひらかれる。また、道がひらけば、人の往来や交通がさかんになる。つまり、ひらくことによって、あるものへの接近（アクセス）が容易になり、見通しもよくなる。

ゴツゴツしたものは、いわば進行を妨げる障害物である。これを取り除けば、道がひらけ、視野がひらけ、アクセスはたやすくなつて、求めるものが平明な姿を現す。「ことばをひらく」とは、要するに、万人が容易に近づける平らなことばを用い、もつて有用な知識が広くゆきわたるように配慮することである。

このような思いが、すべて集まつて、「開く」にプラスの積極性を与えるのだろう。扇の末広がり、めでたいことを象徴する。祝宴などでは「閉じる」を嫌つて「お開き」という。「前途洋々」とした思いには、末広がりに遠くまで見通せる将来の風景が重なる。

末広がりとは、また、私たちの視野そのものである。三六〇度すべてが同時に見えるという見え方は、想像しにくい。近くから遠くまで見わたすとき、私たちは、いわば、時間の経過をも見ている。末広がりとは、空間の形であると同時に時間の形でもある。時間がたつにつれて空間が広がる。あるいは、空間が広がるにつれて時間がたつ。

「開」のプラスの意味は、もつと抽象的な領域にもおよぶ。「開運」とは、運が開けて、将来の明るい見通しが立つこと。道が急に開けて、目の前に広々とした空間が出現するかのようである。ドアを内から外に開くイメージとも部分的に重なる。また、「開眼」は、まぶたが開く感覚である。目が開くことによつて、見えなかったものが見える。真理が一瞬にして目に飛び込む。これが悟るといふ心境ではないか。

(瀬戸賢一『よくわかるメタファー 表現技法のしくみ』より一部改変)

問1 波線部㉞「ダセイ」の「ダ」と同じ漢字を含む語を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 墮落
- ② 妥協
- ③ 惰眠
- ④ 駄作
- ⑤ 唾棄

問2 波線部㉞「カンワ」の「カン」と同じ漢字を含む語を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 緩慢
- ② 寛容
- ③ 歓声
- ④ 慣性
- ⑤ 閑静

問3

傍線部①「こころうさま」と声をかけたくなる」の理由として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 日常生活から解放された状況で旅先の人びとに優越感を覚えたから。
- ② 華やかさのない地域で日常生活を送る人びとの忍耐力に感動したから。
- ③ 緊張の続く生活を離れたため人びとと交流を求め気持ちになったから。
- ④ 旅先の人びと同様に日常は日々の営みに励む自分をいとおしく思ったから。
- ⑤ 見知らぬ地でも自分と変わらない生活をしている人びとの姿に安心したから。

問4 空欄

A

に入れる言葉として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 大智は愚のごとし
- ② 大巧は拙なるのごとし
- ③ 帰心矢のごとし
- ④ 人生朝露のごとし
- ⑤ 薄氷を踏むのごとし

問5

傍線部②「ドアを出るとき、カギを残していくのは、その暗示である」の説明として、最もふさわしいものを

次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 謎めいた世界から旅立っていくことによつて、もはや謎を解くカギは必要なくなる。
- ② 旅立ちには希望とともに不安もあるので、この地とのつながりを残しておくとする。
- ③ 旅立ちによつて目の前に開ける新しい光景に心奪われ、カギの存在など忘れていく。
- ④ 自分が旅立ったことを他の人にそれとなく知らせるため、わざとカギを残しておく。
- ⑤ 新たな世界に旅立ち再びここには戻らないという気持ちだが、カギに込められている。

問6

傍線部③「いわば引き算で片開きの方に引き寄せられるのだろう」の説明として、最もふさわしいものを次の

中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「ひらく」が両開きの戸にふさわしいとすれば、「あける」は違いを示すうえで片開きの戸にふさわしい。
- ② 「ひらく」と言える両開きの戸を見かけなくなり、「あける」としか言えない片開きの戸が一般的になった。
- ③ 「あける」は両開きの戸には使えないので、必然的に「あける」は片開きの戸にふさわしいことになる。
- ④ 「あける」は両開きの戸でも使えると思われがちだが、片開きの戸のほうが「あける」の感じに合っている。
- ⑤ 「ひらく」も「あける」も違いはないが、両開きの戸と片開きの戸の違いを明確にするため使い分けている。

問7 空欄

B

に入れる語として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 運勢 ② うわき ③ 門戸 ④ 会合 ⑤ ころ

問8 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「ひらく」という語はドアを開ける時に使われると、その先にあるものへの不安という意味が現れる。
 ② 「ひらく」は前向きなイメージを持った言葉であり、明るい将来までもが見渡せるように感じられる。
 ③ 「ひらく」は平面的な広がりを表す言葉であり、上下への広がりを表すにはふさわしくない言葉である。
 ④ 「ひらく」が平明な様子を表すのは、人びとのささやかな営みの積み重ねを象徴しているからである。
 ⑤ 「ひらく」が空間的な広さを表す場合には、限られた角度から見える範囲を表す場合が多く見られる。

第二問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

大学の研究室¹というところは、ちよいちよい、妙なものを食べる。

ある日、私たちは一乗寺²の平野の部屋に集合した。テーマは「ちよつと変わったものを食べてみる夕べ」。食べるのは、ハシボソガラスとハクビシンである。

参加者は私、そしてハクビシンの提供者である秋山。こういう時は忘れず顔を出すクボ、家主の平野。そして秋山の研究室に入った子で、カラスやつてみようかな？ というミドリちゃん。ただし彼女はごく普通の女の子であつて、この怪しい面子^{イシツ}の中では浮き気味だ。ハギスの中におはぎが交じっているくらい、浮いている。ちなみにハギスというのは刻んだモツや肉を羊の^(ア)胃袋^イに詰めて蒸すか煮るかした、スコットランドの名物料理だ。ミンチの詰まったソフトボール、あるいは肉々しい餅巾着と思えば、だいたい合っている。こう書くと相当気色悪いものに思える^㉑が、先輩の土産を食った限り、別にまずいものではない。ただ、見た目は想像に忠実に、気色悪い。

ハシボソガラスを持ち込んだのは私。こないだ調査地で死にたてほやほやの死骸^{しがい}を拾ったからである。かわいそうに明け方の冷え込みで死んだのか、死後硬直^{しごこうちん}も始まつていないくらい新鮮だった。研究室に持ち帰って解剖してみたら、若い雄とわかった。生殖腺を探しても見当たらず、解剖に慣れた先生に見てもらつてやつと見つけたのは、小指の爪の先ほどで白豆のような形をした、背骨の左右にへばりついている器官だった。春だというのに全く発達していない。繁殖していないということだ。

この個体が誰なのかは、だいたいわかっている。前日の調査中に見かけた、3羽の若い他所者^{よそももの}のうちの1羽と見て聞

違うないだろう。

死骸を拾った日の前日、下鴨神社^{しもがも}では、 α ^{アルファ}、 β ^{ベータ}と名付けた顔見知りのハシボソガラスのペアが怒りつばなしだった。駐車場のハシボソペアも怒りつばなしだった。馬場のハシボソペアも怒っていた。この3ペアの^(ウ)ナワバリの^(イ)中には、3羽の若いハシボソガラスが下りて来たのである。どの^(ウ)ナワバリの中に入っても追いつてられ、若造たちは^(エ)ナワバリの接する狭い隙間、直径10メートルほどの範囲に押し込められてしまった。

日没になり、私が調査を終了するまで、若い3羽はそこにいた。多分、夜もそこにいたのだろう。前日の騒ぎで、彼らはほとんど餌を取れなかつたはずだ。そして夜半から真冬に戻ったような寒さ。かわいそうだが、餌不足のまま凍える夜を過ごし、朝は迎えた^(ロ)がもはや限界だったのだろう。

小鳥の中には、寒い夜には一晩で体重が10パーセントも減るものがある。脂肪を燃やして体温を維持しているのだ。翌日の昼間にせつせと食べて減った体重を回復させなければ、夜の中に死ぬ。冬のスコットランドでの研究例では、セキレイが昆虫を捕まえるペースは秒単位だったという。何分に1匹なんて悠長なことをしていたら死ぬのである。私もチドリの消費エネルギーと採餌量について大雑把な計算を試してみたことがある^(シ)が、小さな餌しか取れない条件だと、やはり秒単位で餌がいるという予測結果になって驚いた。

翌日、朝早くに来てみたら、 β が低い枝に止まって、下を向いてガーガー鳴いていた。昨日の喧嘩がまだ継続中か、^(ハ)が、それにしても相手のカラスが見えない。地上に向かつて威嚇しているというのも妙だ。よく見ると、草の間に黒いものが見える。はて、黒猫だろうか？

覗き込むと、それは地面に転がるカラスの死骸だった。

ペアの片割れが死んだのかと心配した^㉑が、見ていたらもう1羽のハシボソガラスがやって来た。これはどうやらα君だ。すると、あの死骸は？ ああ、そうか。昨日の若い奴らの1羽か。

社務所に^(オ)断りを入れてから、カラスの死骸を拾い上げ、ビニール袋を二重にして収容した。こんなこともあるかと、デカイゴミ袋は常にデイパックの中に入っているのだ。何か拾った時とか、荷物を防水したい時とか、いろいろと役に立つ。

この死骸は研究室に持ち帰り、各部を計測した後で解剖した。性別と胃内容を見たからだ。性別は若い雄。消化管は完全に空っぽだった。かわいそうに、本当に何も食えなかったのか。ついでに皮を少し剥^はいてみたが、脂肪は全くない。野生動物だということを考えに入れても、かなり痩せていると言えるだろう。空きつ腹で凍死、という推測を裏付ける状態だ。

A 若いうちは特に、このように餌の取り合いに負けて餓死するものは多いはずだ。それ以外にも病気になったり、タカに襲われたり、防鳥ネットに絡^{から}まったり、路上の動物の死骸をつついていううちに自分も轢^ひかれたり、いろんなところで死ぬものである。

さて、解剖して必要な情報は得られた。骨は動物系統学研究室の山崎君にあげるとして、この肉をどうしたものか。痩せているとはいえ、胸肉とモモ肉はそれなりのポリウムがある（もちろん、食肉用に品種改良されている鶏とは比べるべくもないが）。肉質は鴨ロースのような、暗い色の赤身だ。今朝は冷蔵庫のように寒かったし、死後硬直していなかったくらいだから、死後大した時間も経っていない。解剖しても臭くなかった。目のような脆弱^{ぜいじやく}な部位さえ、ほとんど傷んだ様子がない。これ、食ってみても大丈夫なんじゃね？ もちろん火は十分に通すけれども。

(カ) というわけで、食べそうなところを切り取ってみた。まずは胸肉を、さすがに病気や寄生虫をもらうのは嫌なので（ただでさえフィールドワーカーにはそういう噂が絶えないのだ）、焦げるくらい念入りに焼いてみた。よし、いくらなんでも、もういいだろう。シンプルに、塩を^(キ)フって試食してみる。

…：鶏レバー？ ハツ？

なんというか、すぐく内臓っぽい。モツ系のねっとりした臭いがする。はつきり言えば、血の臭いだ。歯触りは硬い牛肉みたいだ。鶏肉のような、ほろほろした繊維質はあまり感じない。噛み締めてもジューシーとかいう感じはなく、ひたすら、ガシツと硬い。

B、噛んでも噛んでも血の味がする。それさえ嫌いでなければ、まあ食べえない肉ではない。少なくとも、まずいとか臭いとかいうわけではない。

血の味は、これが自然死した個体で、血抜きしていないせいだろうか。ちゃんとシメて処理していれば、もう少し旨いではあるまいか。適切に処理していない野鳥でこの程度の味なら、まあ悪くないだろうとは思う。

C、ジビエを食う趣味でもない限り、わざわざ食べるほど旨いものとも思えない。

と思っていたら後で知ったのだが、カラスの肉は赤身だけあってミオグロビンを多く含み、加熱するとどうしても血というか、鉄っぽい風味が出てしまうらしい。レバーっぽいと感じたのはまさに正解だったのだ。レバーと同じで、焼けば焼くほど、この臭いは強くなる。かといって加熱が不十分では危険だ。

D、個体によっては妙な臭いもあるらしい。下処理や加熱の具合など、かなり気を使わないとクセの強すぎる食材とも言える。

E、私が食べた時は周辺にいた人たちにも試食してもらった。結果は、「うまい」「まあまあうまい」が5人、「まずい」「まあまあまずい」が5人、「カラスなんか絶対食いたくない」が1人だった。

(松原始『カラス屋、カラスを食べる動物行動学者の愛と大ぼうけん』より一部改変)

(注)

- 1 大学の研究室：著者の所属していた京都大学大学院の動物行動学研究室。
- 2 一乗寺：京都府京都市左京区の北東部にある町の名。
- 3 下鴨神社：京都府京都市左京区にある賀茂御祖神社かもみおやの通称。境内には馬場があり、流鏑馬神事やぶさめなどのさいに使われる。

問1 傍線部(ア)「胃袋」と同様に、傍線部を重箱読みで読むものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、

その番号をマークしなさい。

- ① 長年の努力がむくわれる。
- ② 墓前に白菊を手向ける。
- ③ 判子をカバンにしまう。
- ④ 棚に鮭缶を並べる。
- ⑤ 鶏肉の唐揚げを作る。

問2

傍線部(イ)～(エ)の「ナワバリ」の「ナワ」にあてる漢字の偏と、傍線部にあてる漢字の偏が異なるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① シモンを採取する。
- ② 彼とはケツエンがない。
- ③ メンミツに打ち合わせをする。
- ④ 砂漠のリョクチカを推進する。
- ⑤ 犯人をソウサクする。

問3

傍線部(オ)「断りを入れ」の意味として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 了承させるために事前に謝罪すること。
- ② 了承させるために私有地に侵入すること。
- ③ 了承を得るために自ら足を運ぶこと。
- ④ 了承を得るために一度だけ連絡をすること。
- ⑤ 了承を得るために前もって連絡をすること。

問4

傍線部(カ)「というわけ」はどのような経緯をさしているのか、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 痩せたカラスで、食肉用に品種改良されたものと比較して、肉質がわずかだが劣っているが、鴨ロースのような赤身だし、たいして痛んでいないから、火をしつかり通せば食べられると判断したという経緯。
- ② 痩せたカラスで、食肉用に品種改良されたものと比較していいほどではないが、肉質がわずかだがまぎっている上に、鴨ロースのような赤身ではあるといつても、ほとんど傷んでいないから、火をよく通せば食べても大丈夫だと判断したという経緯。
- ③ 痩せたカラスだが、食肉用に品種改良されたものと比較して、肉の量はそれなりにあり、鴨ロースのような赤身といつても、少しだけしか痛んでいないから、火を通せば食べられると判断したという経緯。
- ④ 痩せたカラスで、食肉用に品種改良されたものと比較していいほどではないが、肉の量はそれなりにあり、鴨ロースのような赤身だし、ほとんど痛んでいないから、火をよく通せば食べられると判断したという経緯。
- ⑤ 痩せたカラスだが、食肉用に品種改良されたものと比較できるほどではないといつても、肉の量はそれなりにあり、鴨ロースのような赤身で、ほとんど痛んでいないから、火を完全に通せば食べられると判断したという経緯。

問5 傍線部(キ)「フって」の「フ」にあてる漢字と傍線部にあてる漢字が同じものとして、最もふさわしいものを次

の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 母屋が手狭になり、離れをフシンした。
- ② 彼は会社を再建すべくフシンした。
- ③ 最近の彼女の挙動はフシンだ。
- ④ 政治に対するフシン感が募る。
- ⑤ 彼は成績フシンで二軍に落とされた。

問6 二重傍線部①と「が」の用法が同じものを、②～⑤の中から過不足なく選んだものとして、最もふさわしいもの

を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① b
- ② b c
- ③ b c d
- ④ b d
- ⑤ b d e

問7

空欄

A

に入れる表現として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 野生動物らしく、若いカラスは空きつ腹で飛ぶのが普通だ。
- ② 野生動物といっても、若いカラスは賢いとはいえないのではないだろうか。
- ③ カラスは野生動物だから、空きつ腹で飛ぶことを好む傾向にある。
- ④ カラスは野生動物の中で、最も賢い動物といっても過言ではない。
- ⑤ カラスも野生動物である以上、その生活は安全ではない。

問8

空欄

B

く

E

に入れることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、

その番号をマークしなさい。

- ① だから—しかし—また—さすがに
- ② だから—つまり—また—それなりに
- ③ また—しかし—さらに—さすがに
- ④ そして—しかし—また—ちなみに
- ⑤ そして—つまり—さらに—ちなみに

第三問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

わが【島崎】藤村は紳士作家であり、うそをつかない人であった。うそをつかなかつたから姪を愛していても、小説では姪を愛しましたと書きにくいことを、少しもよどみなく書いていた（注——小説『新生』のこと）。芥川龍之介はそれを偽善者だと言ったが、それは芥川の

㉑

中でも一等拙い

㉒

であった。（中略）

藤村は二十六歳で処女詩集『若菜集』（明治三十年刊行）を出したが、三木露風は二十二歳くらいで『廃園』を出版しているのに較べるとやはり遅い、しかし当時二十六歳で最初の詩集を刊行しているのは、全般的に見て早い方である。第四詩集『落梅集』が明治三十四年に出ている、当時藤村は三十歳であった。【I】私の処女詩集発刊は二十八歳くらいで、ここまで考えて来ると、処女詩集は大抵の詩人は三十歳前後に出ていることが判る。

㉓

藤村が 散文や小説に転換したのも、同時に三十歳前後だった。大家らしく新進らしい妙な手堅い地位を持った彼は、雑誌新聞にどっしりした感じの量感をあたえ、吹っ飛ばしても飛ばない重さが見られた。【II】どこからこの重いものを学んだかは、自らやたらに書いてはならぬと覚っていたからである。あちこちの雑誌新聞に勿体ぶられ、彼自身もちからを容れて失うてはならない聡明を築いていたのである。詩人から小説家にかわるということは、並々の軽業師のわざではない。彼はこの軽業を慎重に一步ずつ確かな足踏みで、綱渡りしたのである。【III】詩人から小説家に早変りした最初の人だったのだ。危険とからかいを真向から受けて登場した彼は、小諸滞在中の散文『千曲川のスケッチ』を書き、三十三歳で『

㉔

』を物して、三十五歳でこれを出版した。私は三十歳で小説というものを初めて書いたが、藤

村の小説の著作は遅れていたけれど、その重量感と、雑誌新聞にむかえられた^③ まろうど振りは、到底、私ごときちんぴらの比ではなかった。聡明な小説家への転換は一挙に成功したと見た方がよい、このむずかしい変わり方は当時小説家という者の、七、八人くらいの寥々^{りようりょう}の世界にあつては、今日から見ると押して出るにはかたんではあつたが、それらに変わろうとする藤村の眼の利き方は容易でない利き方で、かがやく野心と自負があつた。【IV】いまもそうだが詩人はどんなに立派な詩を書いていても、なかなか衣食には通じない、その経済的な見地から彼が詩から去って小説を書きはじめたことは、りこうな人間の踏み方をちゃんと知っていたのである。食えないものにぶら下がっていることの莫迦^{ばか}加減を、藤村は何よりも先に見すえていた。それと同時に詩の柔らかかみが二十歳頃に限られたもので、それを幾ら手強く引きつけても柔らかい蔓^{つる}が途中で切断されていることも、藤村はとうに見抜いていたのだ。

作家生活というものの最も賢明なことがらは、書くことよりも、つねにそれを断り続けることである。断らない作家には、あの男なら書くだろうという冷情苛酷な判断の下に、その仕事があつまる。どうせ間に合わせの碌^{ろく}な物しか書いてない奴は、書けない上に書き続けるから頭はバラバラになり、作品の腰が折れてしまうのだ。断る作家は断ることで慎重がられ用いられるに手厚い、ばかを見るのはいつも断らないでいる奴である。これらの温和^{おとな}しい作家は、風船玉のようにひとりで、陋居^{ろうきょ}にへし潰れて行つた。藤村は断る側の作家であつて、一字といえども卑しくしない人だと、いわれていた。実際のことでは一字といえども、ないがしろにしない作家であつた。【V】私はこれをばかばかしく苦り切つて、断る奴を眺めていた。断らなくともよい場合にすら断る奴を、その勇気を私もまなぶべきだと思ふことさえあつた。藤村のその断りつづける仕事振りはずっと続き、それが藤村の^④ 身上でもあつた。どこかに鈍重な白い牛のような感じのある彼は、外部^{むか}に対つては冗談一つ言わずに人生を謹んで生きることが、たとえば表面だけの必要でもあつた。それが

他人を窮屈こっけいがらせていたが、実際は冗談も滑稽なことは何一つ言えないお人からであった。つまり慎重に生きるように見せることは、彼の本質から来ていたのだ。再び言うがうそはつかない人であった。

(室生犀星『我が愛する詩人の伝記』より一部改変)

問1 傍線部①「芥川龍之介」の作品ではないものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 藪の中
- ② 杜子春
- ③ 西方の人
- ④ 城の崎にて
- ⑤ 齒車

問2 空欄 に入る語として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 名句
- ② 秀句
- ③ 警句
- ④ 絶句
- ⑤ 結句

問3 空欄 に入る人名として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 北原白秋
- ② 萩原朔太郎
- ③ 宮沢賢治
- ④ 若山牧水
- ⑤ 高村光太郎

問4 傍線部②「散文」の対義語として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 修文
- ② 成分
- ③ 詩文
- ④ 韻文
- ⑤ 言文

問5

空欄

㉔

に入る作品として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 明暗
- ② 破戒
- ③ 暗夜行路
- ④ 蒲団
- ⑤ 山の音

問6

傍線部③「まろうど」を漢字一文字にした時に最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークし

なさい。

- ① 客
- ② 玉
- ③ 主
- ④ 殿
- ⑤ 貴

問7

傍線部④「身上」の意味として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 信念
- ② まごころ
- ③ 値打ち
- ④ 運命
- ⑤ 方法

問8 本文には、次の文が脱落している。【I】から【V】のうちで、どこに挿入するのが最もふさわしいか、一つ選び、

その番号をマークしなさい。

脱落文【この作為の態度までが作品の手重さに影響していたが、】

- ① 【I】 ② 【II】 ③ 【III】 ④ 【IV】 ⑤ 【V】

問9 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 私は断り続ける藤村を苦々しく思ったが、一方で尊敬しむしろそこに真価を見る。
② 私は藤村が詩人から小説家に転身したのを参考にして、同じ道を歩んだのだった。
③ 藤村は小説家というものが、詩人よりも聡明さを必要とする仕事であると考えた。
④ 藤村は詩人として華々しく登場したが、小説家としての成功には時間がかかった。
⑤ 私が断らない作家を評価しない理由は、彼らが温和しくて自己主張しないからだ。